



2024年2月号

代表 浅原の挨拶

2024年もあっという間に1カ月が過ぎました。子どもたちも日々成長し、とても嬉しく思います。重症化することは少なくなったようですが、まだまだコロナやインフルエンザなどの感染症が流行しています。引き続き感染症対策に取り組みながら過ごしていきたいと思います。

ちょうど今年の今頃、小学校で、支援学級の子どもたちのことを交流学級の子どもたちに伝える機会をいただきました。対象は小学1年生で、まだまだ幼さが残る可愛いくて、思ったことを素直に口に出してくれる子どもたちでした。日頃から「どうして自分たちは頑張っているのに頑張らないの?」「なんで、すぐ怒って叩いてくるの?」「遊んでいるときに、自分が負けたら、なんで急に怒り出すの?」など、いろいろなことが不思議で、先生に質問をしていたそうです。子どもたちがいろいろなことを尋ねてくれることはとてもいいことで、支援学級の子どもたちのことを理解してもらおうチャンスです。1年生にどうやって伝えようかと考えた結果、客観的に受け取れるものにしよう。内容は、なんとなく似た感じの友達が近くにいる「そうそう!こんなことある!」と思えるようなものにしよう決めました。そして、前もって先生に支援学級の子どもたちのことをお聞きして作ったアニメーションをみながら、お話をさせていただきました。最初に「みんな誰だって失敗はする」という内容、次にいろいろな人の苦手なことやどうしてそんなことをしてしまうのかについて、「自分の思っていることがうまく伝えられないとイライラしてしまうことがあるかもしれない」「負けることが大嫌いで、負けてもだいじょうぶと思うことが難しい人がある」「負けてもだいじょうぶって思えたらいいのにね」「人が嫌な気持ちになることを自分で止められない人がある」「頑張りたいけど頑張れない人がある」「少しずつ、少しずつ頑張れるように応援したいね」などのアニメーションを観てもらいました。最後に「人はみんな、一人ひとり違う」「違っていいから、もっとその人のことを知りたくなる」「みなさんに、まわりの人の良いところや好きなところを探す名人になってほしい」そして「自分の好きな気持ち、ありがたいの気持ち、感謝の気持ちを恥ずかしがらずにいろいろな人に伝えてほしい」とアニメーションで伝えました。大人に教え込まれるのではなく、自分で感じたことを大切にしてもらいたいという思いでアニメーションを使いました。子どもたちにどんな風に伝わったか、ほんとうのところはわかりませんが、子どもたち一人ひとりの顔を見ていると、こんなことを続けていくことが私たちの役目だと強く感じました。あれから1年、子どもたちに継続したお話ができていない現状があります。これからもこのような機会を作っていけるよういろいろな所で理解・啓発活動を進めていきたいと思っています。

あそびの様子



パラバルーン!
パタパタする人と
中に入る人と
交代するよ。



せーので
ばあー!!



豆まきの練習

節分におけて新聞ボールで豆まきの練習をしたり、節分についての紙芝居を読んだりしました。



鬼だぞー!

